

〔一〕 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

芸術とは、それを作る人の「どうしようもなさ」を表すものだと思います。何らかの反復です。それが芸術の深く、プライベートな本質です。人間は社会的な存在なので、そのプライベートなどどうしようもなさ、公的なこうあるべきという規範との衝突が起きることがある。そうやってしまうあり方と、公的な「べき」との間に葛藤が生じる。

小説においては、やってはいけないことが書かれることもあるわけです。しかし、文学だから何だっって書いていいというのではなく、倫理、規範意識や、人のどうしようもなさに対する宗教的とも言えるような「救し」が複雑に混ざり合ったような状態で書かれる。そこには葛藤がある。公共性との葛藤、あるいはジレンマが書かれるのです。

芸術には、宗教に近いところがあります。イエスは罪人を赦すわけですが、罪人を赦したら、多くの人は石を投げます。キリスト教は、後年、ある種の道徳のシステムになっていきますが、開祖にはすべてを赦すところがある。

芸術の軸足は、身体的な癖と言えるような反復の方にある。公共性に軸足があったら、こんなあり方をしてはいけない、直しなさいという話になる。公共性と身体性のどちらに軸足があるかが、エンターテイメント的なものと、より芸術的なものを分けるとも言えそうです。

身体と公共性にジレンマ<sup>A</sup>があることはわかっています、それを公共性に寄せることで作品のメッセージを読み解こうとするのがポピュラーなのだと思います。それに対し、ここで提示しているのは、社会とのジレンマがあるときに、やや刺激的な言い方をすれば、「身体<sup>ア</sup>という悪」の方に寄ること<sup>イ</sup>に芸術の意義を見出すというスタンスです。

さてここで、「センス<sup>(注1)</sup>」というキーワードに戻ります。

一定の反復とそれに対する差異がリズムの面白さであり、基本的には、それが程度をばらつきで配置されると「センスがいい」ものになる。しかし、ほどほどのばらつきを備えたアウトプットならば、何の「問題」も持っていないAIでも生成できてしまうでしょう。また、より逸脱性が強く、偶然性を意識させるような「崇高寄り」の方向に崩すことも、パラ

メータの確率をうまく設定すればAIでもシミュレーションできそうです。

おそらく重要なのは、反復の「必然性」ではないかと思います。生きることと結びついた必然性です。生物として、刺激の嵐のなかで、おのれの主体性を仮固定するためにその反復が必要だった、そうするしかなかった、という必然性です。

コンピュータにそれはないわけです。何か足りない、だから埋めたいという生命的な0↓1には、生きるんだ、という必然性がある。コンピュータにおいては、すべての情報が0と1のペアに還元されますが、そこで0と1はまったく等価であり、0に「無」とか「欠如」の意味などありません。二つの状態が区別されるだけです。人間にも、デジタル的と言えるような二項対立でものを処理している面がありますが、そこには、生きようとする向きと関係する何らかの片寄りがあつて、純粹な情報空間が展開しているというのではないかと思います——これは僕が推測するに、ですが。

話を戻します。<sup>(注2)</sup>ラウシェンバークの作風にしても、小説家の文体やよく出てくるモチーフも、制作活動全体におよぶ大きな反復だと言えます。要するに、「この人はいつもこういうことやってるよな」というわけです。人はそのような反復に、なにか重いものを見出すのです。

ひとつのことにこだわらず、いろんな事柄へ飛び移っていくほうがセンスがいいと言えるかもしれませんが、そうしたあり方は軽やかだと言われたりします。それはそれで褒められることもありますが、しかし人は、どちらかといえば、宿命論的に何かに取り憑かれていてる人にどうも惹きつけられてしまう。ただ、「宿命的に何かに取り憑かれていてるみたいにするまう」という自己エンシユツもあるので一筋縄にはいきません。

ともかく、反復と差異のバランスという意味でのセンスの良さがある一方で、何かにこだわって繰り返してしまうことが重要なファクターとしてある。それは、いま言ったセンスの良さを台無しにすることもあるので、「アンチセンス」と呼ぶたいと思います。

人生は、何かを反復し、変奏していく。その出発点には身体があるわけですが、そこに起因しながらも、問題というものはそこから離陸し、チュウショウテクシなウズマキとなっていく。問題は反復されますが、いつか別の形になるかもしれません、それも予測が付きません。一ショウガイを通して反復されるのかどうかはわかりません。ともかく問題と付き合いながら、

人間は変身していく。

ところで、作品を人生に還元するのも違うし、作品を完全に個人から離れたものとして捉えるのも違うと思います。作品は、主体化と共にあると同時に、主体の変容、さらには匿名化と共にある。

あるどうしようもなさの反復には、その根底に、たまたまこの存在として生まれたという偶然性が響いています。反復には、偶然性、ランダムであることが重なっている。執拗しやうなるものとしての必然性を持ちつつも、たまたまそうなっBてしまっているという偶然性を両義的に帯びている問題が、反復と差異のセンスを引き裂く。そのとき人は、そこに重要なものがあると思うのです。そこには真面目に向き合わなければいけないものがある。

センスがいいというバランスを食い破るような、問題の反復によるアンチセンス。どうしようもなさの亡霊C。そこには、何らかの典型的なもの(注3)、テンプレ的なものが関わっているのではないか——このことを最後に説明したいと思います。

個性というのは、一〇〇人いけば一〇〇通りに多様ではありませんが、ひとつの個性は純粋にオリジナルなものではありません。個性には、人生において見聞きし、それをモデルにして自己形成するところの、いろんな典型性——ステレオタイプ、テンプレート(注4)、クリシエキなどと言ひ換えることができる——の反復が含まれています。

典型的なものとの関係なしに主体キとなることはできません。主体化の過程では、何らかのモデルを参照する。それはイメージ的なものでもあるし、言語的でもある。

ある時代と場所にたまたま生まれたことで、子供の頃に見聞きしたものが制作のモチーフになるとか、人生のある局面で出会った雑誌の1ページのイメージや言葉が残っていて、それが変形される、などなど……。ある種の迫力を伴ってセンスを突き破るものは、その人の個性としての反復ですが、それは「個性的なテンプレ性」みたいなものではないか。オリジナルティとは、その人がどのように典型的なものとの関係を持ち、また距離をとってきたかということのオリジナルリティです。

以前、ある本を出すときに、表紙のデザインを担当編集者の方と考えているとき、「あまりかっこいいものって、案外売れないですよ」と言われたのを印象深く覚えています。それをはつきり言われて、いろんな事柄がつながる気がしまし

た。

センスの洗練がすべてではない。野暮つたいというか、不快すら引き起こすものが人を惹きつけてやまないことは周知の事実だと思います。装飾と機能性ということで言えば、装飾を抑える、ほどほどにする方が（近現代のデザインでは）洗練ですが、ある種のテンプレ的な装飾を過剰化することが大衆文化らしさだったりするわけです。ヤンキーファッション、ギヤル的なもの、スーツのこだわり、何らかの集団的役割のコーチョウ、などなど。そこまでは行かなくても、本の表紙が「あまりかっこよくない」方がいいというのも似た話でしょう。

典型性とは、そこで人が匿名になるものです。多くの人がそれを頼って主体化するような鑄型。それを手放して肯定するのは、<sup>(注5)</sup>ファシズム的です。アンチセンス的なものが「売れる」のなら、そうした方がいいという表面的な話は、ファシズム的なものにつながっている。広告の話ですから、当然そうなるのだとは言えるでしょう。しかし、ここで考えたいのは、典型性のファシズムを批判する立場をとるにしても、批判する主体にも何らかの反復があるし、大前提として人間は、反復と差異というセットでつねに動いているということです。

人は、より自由になろうとする一方で、何らかのモデルや枠組みに頼っている（神経精神分析的に言って）。その間にジレンマがあり、切実さがある。

人間の魅力というのかもしれないかもしれません。バランスがとれた良い人というだけでは魅力に欠ける、というのはよく言われる話で、どこか欠陥や破綻がある人にこそ惹きつけられてしまうことがある。その破綻というのは、その人固有のものというより、「ある種のテンプレのその人なりの表現」だったりする。固有の人生がなぜか典型的な破綻に取り憑かれてしまう人間という存在の愚かさが、人をそこへ巻き込む悪魔的魅力となる。

そのようなものを魅力と捉えるのはよくないという意見もあるでしょう。それを言う必要もある。しかし人間の個性的悪を消し去ることはできません。それを消し去ろうとすることこそが巨悪であると僕は信じます。ゆえに、重要なのはやはりジレンマです。

悪魔的と言うと、ドイツ語の「デモニッシュ」が思い浮かびます<sup>(注6)</sup>（フロイトが「不気味なもの」という論文で使ってい

たからでしょう)。デモニーシユな反復がある。それを変奏する。そしていつか、それは別の形に変わるかもしれない。だが当座、反復があるにはある。

センスの良し悪しと、アンチセンスが拮抗するところ。それは日常そのものではないでしょうか。たとえば、一人暮らしの部屋。

センスが悪いという言い方を避けて、センスがまだ無自覚な状態というものを、次のような例で説明しましょう。本当は豪華な部屋に住みたいのに、そういう人生だったらよかったのに、そんな文化資本があったらよかったのに、そうなりようもないので、それっぽい家具で部屋を作ると、無自覚な身体性としての生活感にじみ出る。そこで、道は二つに分かれる。何かに憧れることなどやめてしまえばいい、そうすれば自由に生成変化するセンスが活性化するだろう、というのが本書で説明してきた道でした。

ですが、その道を進んでいくことで最終的に、もう一方の、より暗い道の存在に気づく……というか、いつの間にか二つの道の見分けがつきにくくなっていく、二つの道が分身になっていることに気づくのです。

・センスは、アンチセンスという陰影を帯びてこそ、真にセンスとなるのではないか。

だとしたら、みすばらしく生活感にじみ出ているようなあの狭い空間にこそ、そもそも、すべての本質があったのではないか。そこに住む誰かの、その特異性の「問題」が。

人間もAIのように、何かからものごとを生成している。

どうしてもそうならざるをえない問題のなものが芸術と生活にまたがって反復され、変形されていく。人が持つ問題とは、そうならざるをえなかったからこそ、「そうでなくともよかった」という偶然性の表現でもある。問題が繰り返され、何か

ひとつの塊に見えてくるほどにそこから、果てしない広がりとして偶然性がまばゆく炸裂する。

一人暮らしの狭い部屋は、ラウシェンバーグの画面に似ている。

(千葉雅也『センスの哲学』より)

(注1) 「センス」というキーワード —— 課題文に先立つ箇所では著者は、「センスとは、ものごとの直観的な把握である」と定義し、「センスによる把握とは、ものごとを意味や目的で把握するのではなく、形・色・響き・味・触感など様々な要素のデコボコリズムとしてとらえることだ」としている。

(注2) ラウシェンバーグ —— 一九二五～二〇〇八。アメリカ合衆国の造形作家。一九五〇年代～一九六〇年代にかけてオブジェと絵を合体させたコンバイン・ペインティングなどの作品を発表したことで知られる。課題文に先立つ箇所では、ラウシェンバーグの作品に多用される汚れたような色彩やガラタが寄せ集められたようなイメージについて、著者はそれらを「個性的な反復」であるとし、「個人が抱えている、自分では十分自覚できていないような問題をめぐって作品が生み出される」と述べている。

(注3) テンプレ的なもの —— テンプレート(コンピュータのソフトウェアで、データや文書作成にすぐ利用できるように設定済みのパターン)のように、ひな型(見本、手本)となるもの。

(注4) クリシェ —— 昔から言い古されてきた出来合いの表現やイメージ。

(注5) ファシズム的 —— ここでは「個人よりも集団全体を意識している」という意味。

(注6) フロイト —— 一八五六～一九三九。オーストリアの精神医学者。精神分析の創始者。

問一

「身体と公共性にジレンマがある」<sup>A</sup>とはどのような状態か、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

1

- 1 一方を優先して他方を否定する状態。
- 2 単一の価値観を放棄し多様な価値観に傾く状態。
- 3 二つの価値観の対立を調停して第三の選択肢を見出す状態。
- 4 同時に満たせない二つの価値観の間で板挟みになる状態。
- 5 二つの価値観が互いの良いところを打ち消し合っている状態。
- 6 二つの価値観の両者とも等しく満たされる理想的状態。

問二

「身体<sup>ア</sup>という悪」の「悪」が含意するニュアンスとして最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

2

- 1 医学的文脈で用いられる身体的症状を暗示し、専門的診断や治療対象としての異常性を指し示す病理用語的ニュアンス。
- 2 公的な規範の立場からは、芸術を作る人の身体的な癖ともいえる反復が、倫理を逸脱するように見えることを示すニュアンス。
- 3 社会的・倫理的観点から許容されない逸脱行為や禁忌的衝動を主題化し、排除・制御すべきものとして扱う攻撃的ニュアンス。
- 4 社会的規範の名のもとに抑圧され続けてきた私的感情や欲望を噴出させ、その排除や統制を強調する否定的ニュアンス。
- 5 他者への制裁や攻撃的衝動のみを切り取って強調し、暴力的・攻撃的傾向を象徴的に表現する含意をもつニュアンス。
- 6 身体的痛覚や苦痛、不快感といった感覚のみを強調し、身体存在の苦しみを「悪」として限定的に示すネガティブなニュアンス。

問三

「エンシユツ」「チュウシヨウテキ」「ウズマキ」「シヨウガイ」「コチヨウ」の傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、

次の中からそれぞれ一つ選べ。

3  
7

- |   |               |             |                |
|---|---------------|-------------|----------------|
| イ | 1 エンカイを開く     | 2 エンジョを求める  | 3 エンギの悪い言い方    |
|   | 4 時間をエンチヨウする  | 5 楽器のエンソウ   | 6 エンレイな立ち姿     |
| エ | 1 チュウコクを無視する  | 2 チュウセキ平野   | 3 無作為なチュウシユツ   |
|   | 4 和洋セツチュウ     | 5 軍がチュウトンする | 6 チュウヤを問わない    |
| オ | 1 今後のカダイ      | 2 事件のカチュウ   | 3 カレイな舞台       |
|   | 4 カシツを認める     | 5 人文系のカガク   | 6 カサイの発生       |
| カ | 1 テンガイ孤独の身の上  | 2 ガイタンに堪えない | 3 ガイゼンセイの高い出来事 |
|   | 4 ガイコツのようにやせた | 5 ガイトウシヤなし  | 6 ダンガイ裁判所      |
| ケ | 1 終身コヨウ       | 2 胸のコドウを感じる | 3 車のコシヨウ       |
|   | 4 コダイな広告      | 5 カッコの中に入れる | 6 コタンの境地       |

問四

「アンチセンス」が指す概念として最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

8

- 1 「必然性を持ちつつもたまたまそうなってしまう」という両義的偶然性と、崇高さと逸脱性を同時に強調する創作姿勢を指す概念。
- 2 公共的規範のもとでの大衆文化的統一感を、装飾の過剰化によってかき乱し、視覚的衝撃を与えることを狙うデザイン思想を指す概念。
- 3 形式的な美的均整や既存の芸術的枠組みを徹底的に排除し、読者の知覚や感覚を混乱させる、反芸術としての否定的手法を指す概念。
- 4 社会的規範を堅持しつつ、そこに遊戯的かつ即興的な変奏を加えることでセンスの均衡にズレを生じさせる表現スタイルを指す概念。
- 5 無意識的な身体性や本能的な衝動を排し、純粹理論のみで構成されたセンスを至高のものとするような立場を指す概念。
- 6 反復と差異のバランスやセンスの洗練を崩すことになっても、自らの問題にこだわらずにはいられないという反復の必然性を指す概念。

問五

「必然性を持ちつつも、たまたまそうなってしまうという偶然性を両義的に帯びている問題」の「両義的」とはどういうことか、最も適切と思われるものを次の中から一つ選べ。

9

- 1 両者の中立的な立場を示し中間的意味を持つということ。
- 2 一つの意味だけを強調して排他的に扱うということ。
- 3 偶然と必然を厳密に区別し分離するということ。
- 4 二つの相反する性質を同時に含むということ。
- 5 常に二段階で解釈が変化するということ。
- 6 二者択一でしか判断できない状態だということ。

問六

「どうしようもなさの亡霊」が比喩的に指すものとして最も適切と思われるものを次の中から一つ選べ。

10

- 1 作品の中でだけ出現する架空の悪霊。
- 2 過去の行為を悔い改めさせる宗教的懺悔心。
- 3 人間性を喪失させる恐怖を喚起するイメージ。
- 4 公共性の名の下に排除される私的衝動の権化。
- 5 何かに取り憑かれているかのようなモチーフの反復。
- 6 倫理的均衡をおびやかす政治的プロパガンダ。

問七

「典型的なものとの関係なしに主体キとなることはできません」の理由として最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

11

- 1 典型を参照することをやめてしまうと、社会的承認や所属感が失われ、自分にとっての問題がどうしようもなく反復してくるような精神的危機を招くから。
- 2 自らの欠如を埋めたい生命的衝動と公共的規範のせめぎ合いを踏まえると、主体が純粋なオリジナリティを持つことは幻想にすぎず、常に他者や文化的典型との関係に縛られるから。
- 3 他者からの社会的承認が主体性形成には不可欠であり、センスとアンチセンスの拮抗状況を検証しながら、典型を参照することを通じて承認を得ることが自我を確立するために必要だから。
- 4 文化的テンプレートを放棄すると、反復と差異のセンスの均衡を失うことにつながり、内面が分裂して一貫した自己同一性を維持できなくなるから。
- 5 既存モデルから距離を置くことで、両義的偶然性を構成要素として活用できず、身体的反復行為と公共的規範の対立を自己肯定に組み込めなくなるため、典型性との関係構築が欠かせないから。
- 6 主体形成は無から出発するのではなく、先行するモデルやイメージを参照しつつ、身体的反復行為と公共的規範の衝突を通じて自己を構築していく過程が必須だから。

問八

「センスの洗練がすべてではない」とは筆者のどのような主張を示しているか、最も適切と思われるものを次の中から一つ選べ。

12

- 1 装飾を極力抑え、形式的均整と幾何学的構成だけで機能的美を追求するスタイルこそが、近現代デザインの唯一の洗練だとする主張。
- 2 AIのような純粹情報処理による技術的精緻さのみを評価し、身体的必然性や欠如を埋めようとする生命的衝動を伴わない理論的センスを至上の美德とする主張。
- 3 人は公共的規範とのせめぎ合いの中で、自らの欠点や破綻を抱えた身体ゆえの偶然性を帯びた反復と変奏を重ねることで、初めて「真のセンス」を発揮できるとする主張。
- 4 崇高さを志向し、必然的な構図を逸脱する偶然性重視の変奏表現が、既成のセンスを超えて最も洗練された芸術性を示すという主張。
- 5 公共性や社会的規範を背景に構築された秩序としてのセンスこそが芸術的正解であり、個々の身体的衝動や偶然性を超克すべきだとする主張。
- 6 個人の私的身体性や偶然性を排除し、純粹な理論のみで構成されたセンスを至高とし、感覚的変奏を排除すべきであるという主張。

問九

「当座」と同じ意味で使われる表現として、最も適切と思われるものを次の中から一つ選べ。

13

- 1 差し当たり
- 2 終始一貫
- 3 根本的に
- 4 逐次的に
- 5 恒久的に
- 6 絶对的に

問十

「センスの良し悪しと、アンチセンスが拮抗するところ」とはどういう状況を言っているか、最も適切と思われるものを次の中から一つ選べ。

14

- 1 デザイン領域で、装飾的要素と機能的合理性が完全な調和を見せる一方で、反復と差異を引き裂くような崩壊的アンチセンスが全く介在しない理想的な空間状況。
- 2 芸術作品を鑑賞する際、作品がもつ構成的センスを評価すると同時に、偶然性を帯びた反復や崩壊的要素としてのアンチセンスも等しく重視され、その両者が張り合い感覚的均衡がとれている状況。
- 3 文章表現において、平易な語り口と専門的難解表現の二者が一切偏ることなく併存し、読み手の理解の中で両者が均衡して機能しているような状況。
- 4 日常生活の中で、身体的衝動と公共的規範が絶えげめぎ合いながら互いに干渉し合い、その結果として洗練されたセンスとそれを破壊するアンチセンス的な自己の問題の反復行為が併存する状況。
- 5 判断の場面で、個人の思考が100%の合理性に基づく分析か100%の感性に基づく直観のいずれか一方に極端に振り切れ、両者が同時に作用する余地が一切ない状況。
- 6 都市空間において、公共的交流領域と私的居住領域との境界が曖昧になり、生活者の身体的リズムや欲望と社会的規範とが混交しめぎ合っているという生活実感がある状況。

問十一

「人が持つ問題とは、そうならざるをえなかったからこそ、『<sup>サ</sup>そうでなくてもよかった』という偶然性の表現でもある」とはどういうことか、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

15

- 1 「身体という悪」が示すような本能的衝動や反復のズレを否定し、公共的規範や纯粹理論に基づく形式的洗練こそが芸術の価値だとする極端に理論化・画一化された立場が表現されているということ。
- 2 身体的反復と公共的規範の衝突を無視し、偶然性を内包する無意識の身体の癖をすべて排除して、純粋に合理性とセンスの論理で構築された変奏のみを追求する表現こそ真の創造であるとする視点を批判しなければならぬということ。
- 3 AIのデジタル的情報処理にならない、身体的必然性や生命的渴望を0と1のデータに還元し、あらゆる偶然的ノイズを完全除去したうえで纯粹理論だけで組み立てる手法を理想とした機械論的アプローチによって表現すべきだということ。
- 4 必然的反復を徹底的に否定し、崇高を志向する偶然性やランダムな逸脱表現のみを至高とみなし、「どうしようもなさの亡霊」のような予期せぬズレを乱反射的に追求する崇高寄りの創作態度を貫くべきだということ。
- 5 人間の主体性は自らの欠如を埋めたいという生への渴望に根ざした必然的反復行為を通じて現れるものであり、その過程で予期せぬズレという偶然性を帯び、「反復と差異のセンスを引き裂く」問題として作品上に表象されるということ。
- 6 必然性と偶然性が両義的に交錯する問題を取り込み、そのズレや「そうでなくてもよかった」という可能性の瞬間を生かしつつ、公共的規範と身体的反復のせめぎ合いを創作プロセスにおいて意図的に設計する実践的創作理論にもとづいた表現をすべきだということ。

問十二 本文全体の論旨の説明として適当なものを、次の中から二つ選べ。

ること)

16

16

の欄に、二か所マークす

1 本文は、身体的反復行為の必然性を公的規範との衝突や生への渴望を背景に再検討し、「身体という悪」の視点から、センスとアンチセンスの拮抗を通じ反復と差異のバランスを新たに捉え直すことで芸術の本質を再定義しようとしている。

2 本文は、反復と差異のバランスや装飾の抑制によって得られるセンスの洗練について語るだけでなく、生存欲求に基づく反復の必然性とそこに重なる偶然性との交錯から生じるアンチセンスに向き合うことで個人の特異性が見えてくると述べている。

3 本文は、人間が自分の主体性の欠如を埋めようとする衝動と、それによって必然的に生じる個人的「問題」の反復が、個性的なセンスにつながることを論じているが、そういった「欠如」や「反復の必然性」がAIやコンピュータにはないとも指摘している。

4 本文は、個性は純粋なオリジナリティから生じるのではなく、先行する典型やモデルを参照しつつ距離を置くことで、その拒絶を含む葛藤のプロセスを経て形成されるものであると述べ、ジレンマの重要性を強調している。

5 本文は、アンチセンス的な破綻を文化ファシズム的均質化への批判装置とみなし、装飾の過剰化によって視覚的・感覚的ショックを与え、大衆の覚醒を誘発する主体的な芸術的抵抗手段として描き出している。

6 本文は、作者の提起する「どうしようもなさ」を、宗教的赦しの視座のみならず公共的規範と個人的必然性との裂け目を超克する倫理的プロセスとしても再構築し、そこにこそ芸術的表現が成立しうる可能性がある」と論じている。

〔二〕 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

住宅や共同生活のあり方は時代とともに、その背後にある社会規範と密接にリンクしながら変化してきました。歴史的に見て住宅が単に「住むためだけの場所」になったのは、近代以降のことだともいわれます。

それ以前は、仕事の間であつたり、生産の間であつたり、カンコンソウサイがおこなわれる場であつたりしました。家族や親族だけでなく、奉公人などの他人が一緒に暮らすこともありふれたことでした。

建築学者の西山卯三は、戦前の住宅を「家長的、封建的なイエの営みを入れる器」<sup>A</sup> だつたと表現しています。

当時の住宅は、家長（戸主）が統率する空間であり、家族は家長の営む生活に奉仕する存在でした。「家」の中で個人の私生活をくりひろげる空間を求めることは出来なかつた（西山卯三『これからの住まい』）と記しているように、戦前の住宅に「私生活」や今で言う「プライバシー」といった発想はキハク<sup>ウ</sup>でした。

日本の伝統住宅には壁が少なく、多くは襖や障子で仕切られていました。特に農村であれば、三世代、四世代が大家族で暮らすことも一般的だつたのです。つまり、家制度の規範に沿つた住宅だつたといえます。

その後、大家族という封建的な形態を否定する風潮が高まり、アメリカ型の民主化の風潮もあいまって、私生活重視の家族がシントウ<sup>エ</sup>し、それが住宅にも反映されます。

家の「間取り」というのは、家族の規範や社会の規範を反映したものです。住宅は現実の家族生活をそのまま反映しているというよりも、家族の理想像を反映したものです（久保田裕之「近代家族の空間配置」）。

今も日本では、「nLDK」型の住宅が一般的です。

すなわち、個室と共同スペース（リビング）という間取りですが、このnLDKのプランが完成したのは昭和30年代でした。深刻な住宅不足を解消するため、日本住宅公団（現・都市再生機構）が誕生し、食べる場所と寝る場所を分けた、シン

ブルな2DKの集合住宅が開発されたのが始まりです。

ダイニングキッチン(DK)は、団地の普及やその後のマンションブームの影響で全国に広まっていき、その後、戸建て住宅にもDKにリビングがついたLDKとなり、個室を含めたnLDKが定型となっていったのです(三浦展『あなたの住まいの見つけ方』)。

今日でもわれわれは、「うちは四人家族だから3LDKかな」と考えたり、不動産会社から「五人家族なので4LDKですかね」と言われたりすることがあると思います。家族の人数から1を引いた数が選ぶべき基準となっていますが、多くの人がその根拠について深く考えたことはないと思います。

上野千鶴子によれば、これは家族の中には「個室を割り当てられないメンバー」が前提されていることを意味します。みなさんの自宅には「お母さんの部屋」はある(あった)でしょうか？

現在では多少変化もあると思いますが、日本では長らく、そして現在でも「妻であり、母である女性」の個室というものはないことが当然視されてきたのです。言われて初めて気づいた、という人も多いのではないのでしょうか。

もちろん、夫婦の寝室とされている部屋の場合が多いのですが、たとえ父の部屋(や書斎)があつたとしても「母の部屋」とされる部屋はなかったのではないのでしょうか。

妻に個室がないことは、住宅全体が妻の管轄であり、家事責任の一切を妻が担うことを想定してのことです。社会学者の矢澤澄子<sup>すみ</sup>はこう述べます。

「嫁」役割の拘束を解かれたかに見えた女性を、再度「妻」役割や「母」役割に回収するモダンなDK設計は、戦後家族の性別分業規範を慣習化させる見事な設計技術であった。そして、nDK空間を「女」のモダンな自立空間と見誤ったのは、当の女性自身でもあった。

(矢澤澄子「ジェンダーと都市居住」)

上野千鶴子は簡潔に、「人間の用のために空間があるのではなく、空間の配置にあわせて生き方がつくられる」と述べています（上野千鶴子『家族を容れるハコ 家族を超えるハコ』）。

私たちはなんとなく「人間の生活にあわせて住宅が設計されている」と考えるわけですが、実は「住宅の設計にあわせてわれわれは生活を形づくっている」とも言えるのです。「住宅が意識を規定する」と言ってもよいかもしれません。

このように、家族規範やジェンダー規範が住宅のあり方と密接に関わっています。住まいのあり方を見直すことは、社会における「家族はこうあるべきだ」という規範や圧力を見直すことです。今後の家族や人間関係を考えるうえで重要な視点になるのです。

2020年の国勢調査によれば、一般世帯のうち一人で暮らす「単独世帯」が38・1%で、現在の日本は一人暮らしが最も多い世帯の類型です。続いて、「夫婦と子供から成る世帯」25・1%、「夫婦のみの世帯」20・1%、「ひとり親と子供から成る世帯」9・0%となっています。9割以上が親族世帯か単独世帯ということになります。

当たり前の話だと思いかもかもしれませんが、家族か一人か、という二者択一的な住まいのあり方を問い直してみる必要があります。

未婚率・離婚率が上昇するなか家族関係から離脱する人が増加しています。住宅家族主義とも呼ぶべき現在の状況では、家族関係から離脱したときにコリツにオチイってしまうリスクが高いのです。

こうした住宅に関する社会規範を見直し、新たなつながりのあり方を検討しなければなりません。

標準的なライフコースが自明なものではなくなってきた現代、新たな居住に注目が集まっています。

その代表的なものとして「シェアハウジング」があげられます。ここでは家族以外の人たちが住宅をシェアして暮らす居住形態を幅広く指すことにします。

欧米では、若年期に経済性や効率性を考えてシェアハウジングを選択することが一般的ですが、日本ではこうした選択肢は一般的とは言えません。

たとえ他人と暮らすことにさまざまなメリットがあっても、日本では他人と暮らすくらいなら狭くても不便でもひとりで暮らすほうが気楽で望ましいと考えられる傾向があります（久保田裕之『他人と暮らす若者たち』）。

日本で他人と暮らすことが忌避・反発される理由として「共に暮らすのは家族であるべき」という社会規範の存在が挙げられます。

それゆえ、日本では実質的に「家族と住む」か「ひとりで住む」というふたつの選択肢しか存在しないのです。

久保田裕之が指摘するように、そもそも日本の住宅構造それ自体がこのような社会意識を反映しており、家族が共に生活するのに適しているでも、「他人」が一緒に暮らすためには不便なものがほとんどなのです。

シェアハウスと聞くと、若者どうしの共同生活をイメージする人が多いと思いますが、シェアハウジングのあり方もどんどん多様化しています。

ひとつには、高齢者どうしのシェア居住が普及しつつあります。「人生100年時代」と言われる現代、配偶者と死別したあとに長い期間一人で暮らす高齢者が増えています。こうしたなかで家族ではなく「グループホーム」で暮らすという選択をとる人が増えています。

ほかに、ここ数年、新たな取り組みとして注目を集めているのが、シングルマザーが共同生活をおこなうシェアハウスです。

ひとつの住戸に複数の世帯が集まり、互いの不足しているケアを補い合うことで負担を軽減しようというのが、母子世帯向けシェアハウスの基本的な考え方です（葛西リサ『母子世帯の居住貧困』）。

入居する前に、エアコンや洗濯機、冷蔵庫といった最低限の家具が備え付けられているので、経済的コストをおさえることができ、すぐに新生活がスタートできるというメリットもあります。

以前、私も鹿児島市でシングルマザー向けシェアハウスを運営する窪商事くぼさんに取材に行き、実際にシェアハウスを見学し、詳しく話を聞いたことがあります。

ホームページに書かれているように、シングルマザーどうしが共同生活をするので、「ママ同士で相談できる」「経済的

負担の軽減「子供同士で遊べる」「誰かがいてくれる安心感」「プライベートな空間」「育児と仕事の両立」といったさまざまなメリットがあります。

お話を聞いて特に印象的だったのは、大人が複数存在することで生活に生じるメリットでした。

シェアハウスの経済性という意味では、家賃や光熱費、家具といった経済的なコストを抑えられる点は比較的想像しやすいと思います。しかし、それだけでなく、家にほかの大人がいることで残業する日を確保できたり、時短勤務を減らしたりすることが可能になり、収入が増えるという側面もあります。

取材を通じて、共同生活がさまざまな選択肢を生み出し、生活の充実化につながることがよくわかりました。

他には、「ホームシェア」という取り組みもあります。

もともと北西欧や北米を中心に、世代を超えて形成される協同的な居住形態がホームシェアと呼ばれてきました。さまざまな生活上のニーズを、他人との共同生活のなかで非貨幣的に担い支え合うシェア居住です。

特に、学生（や若者）が、一人暮らしの高齢者の住居の一室を無償で提供してもらうかわりに、見守りをおこなったり、週10時間程度の雑務を担当したりする協同的な生活のしくみが一般的な形態のようです（久保田裕之「ホームシェア」）。

それ以外にも、単身高齢者とシングルマザーがともに暮らすシェア居住なども増えています。

大学の講義でこのような家族以外の人と暮らすシェアハウスの話をする時、「自分には無理だ」「現実的ではない」「落ち着かないのでは」といった否定的な感想が返ってくることもあります。

当然の話ですが、同性婚が認められたからといってすべての人が同性と結婚することを強いられるわけではありません。選択的夫婦別姓が認められたからといって結婚したらみんな別々の姓になることを強いられるわけではありません。

同じように、シェア居住が広がるからといって、みんなが他人とシェアして暮らせというわけではありません。

これまでの「家族暮らしか、一人暮らしか」という二者択一だった状況を変え、多様な選択肢を用意することのメリットを考えていこうということです。

自分には無理かどうか、自分がしたいかどうかを離れて、多様な住まい方を社会が用意することが持つ意義について考え

てみてほしいと思います。

現代の日本では、まだまだ住まい方や共同生活に関するステレオタイプに縛られているがゆえに、多くのミスマッチが生まれていると思います。

たとえば、7軒に1軒が空き家であるといわれる一方で、住居に困窮している人たちが多くいます。単身で暮らすのに不安を抱える高齢者が増加する一方で、他人でもよいから同居してくれる誰かを望むひとり親が多くいます。

もっと話を広げれば、望まない妊娠によって中絶を選択する人が多くいる一方で、不妊に悩み精神的に追い込まれながら治療を続ける人が多くいます。いろいろなミスマッチがあります。

こうしたミスマッチを解消するためにも、従来の「常識」や「かたち」とらわれずに、人々が持っている資源の「不足」と「過剰」に焦点をあてて、ニーズに基づいて柔軟に人と人とながっていけるような仕組みを構築していくことが大事です。

「私なんて何の取柄とりえもなくて……」と思う人も多いと思いますが、例えば、一人暮らしの高齢者にとってみれば、「自転車に乗ってちょっと遠くまで買い物ができる」ことが生活にとって大きなメリットになることだってあるのです。

本書でこれまで見てきたのは、家族として生活するための権利や責任を「一式パッケージ」として結婚にだけ押し込むことの限界です。個人と個人が相互にケアする関係に多様な選択肢シを与えることが重要だと思っています。

(阪井裕一郎『結婚の社会学』より)

問一

「密接にリンクしながら変化してきました」という表現の説明として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

17

- 1 税制優遇や補助制度の変遷が住宅取得に与えた影響を、家族や社会規範との関係性に注目して示すために用いられた表現である。
- 2 天災や建築技術の進歩が相互に影響を及ぼし合いながら住宅構造を変化させてきた歴史的事実を、社会規範の変遷に絡めて端的に示す表現である。
- 3 流通インフラと都市計画が同時進行で住宅供給を左右してきたことをふまえ、社会資本に基づいた整備状況を、家族制度との関連で示すことを指す表現である。
- 4 モダンデザインの流行と建築意匠が公共政策や公的住宅施策の中で互いに呼応しながら住宅スタイルを刷新し続けた過程を指す表現である。
- 5 社会規範が変遷する中で、住宅設計や間取りが家族規範や社会規範を取り込みつつ相互に影響し合い発展した状況を指す表現である。
- 6 省エネ法や環境規制が都市居住を牽引し、住宅の設計や機能が社会の持続可能性要請にに応じて変化してきた都市史を示す表現である。

問二

「カンコンソウサイ」「キハク」「シントウ」「コリツ」「オチイって」の傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、次の中からそれぞれ一つ選べ。

18

22

- |   |                |                  |                |
|---|----------------|------------------|----------------|
| イ | 1 人員をカンリする     | 2 オウカンをいただく      | 3 諸事情をカンアンする   |
| ウ | 4 新入生をカンゲイする   | 5 めぐまれたカンキョウ     | 6 論文集をカンコウする   |
| エ | 4 1 意志がハクジャクだ  | 2 ハクシキな学者        | 3 ハクシヤクの榮譽を受ける |
| ク | 4 資格をハクダツされる   | 5 ハクライヒンの葉巻      | 6 ハクガイを受ける     |
| ケ | 1 学術をシンコウする    | 2 スイシン二万メートル     | 3 床上までシンスイする   |
| コ | 4 シンサに合格する     | 5 シンライできる友人      | 6 権利のシンガイ      |
| ク | 1 部活のコモン       | 2 床にコテイする        | 3 コキユウを荒げる     |
| ケ | 4 ココウの存在       | 5 コケツに入らずんばコジを得ず | 6 美しいコスイ地方     |
| ウ | 4 1 絵画をカンショウする | 2 カンコウチョウに勤める    | 3 カンシユウジョウの決まり |
| エ | 4 カンサツ日記をつける   | 5 地面のカンボツ        | 6 試験をカントクする    |

問三

「家長的、封建的なイエの営みを入れる器」の「器」という比喩表現の内容の説明として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

23

- 1 工具や用具をまとめて保管する実用的収納箱を暗示している。
- 2 壁や仕切りといった建築的構造要素としての容器を指している。
- 3 家庭内行儀や儀礼を規定する法的枠組み全体を指している。
- 4 家屋を宗教的儀式のためにつくられた祭器としてたとえている。
- 5 家電や家具等を収納・展示する道具入れの比喩として用いている。
- 6 家長を頂点とする生活様式を内包していることを暗示している。

問四

「特に農村であれば、三世代、四世代が大家族で暮らすことも一般的だったのです」の前後の文脈をふまえた説明として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

24

- 1 農村における条件を除外した場合、大家族同居は成立しなかったことを示す。
- 2 農村に限らず都市部でも同様の大家族同居が広く見られたことを示す。
- 3 農村ではプライバシーのない居住形態が当たり前の様態になっていたことを示す。
- 4 農村でありながらも単独世帯が増えつつあった状況を示す。
- 5 税制優遇が適用される地域であった場合のみ大家族同居が行われたことを示す。
- 6 農村においては伝統的住宅ではなく近代の間取りが普及していたことを示す。

問五

「家族の理想像を反映したものだ」といえる理由として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

25

- 1 気候風土や建築材料の特性を生かし、家族たちのニーズよりも自然条件を優先しながら、歴史的住宅形態の再現を追求する設計原理が働くから。
- 2 家の間取りは、現実の生活の都合に合わせて設計されるのではなく、家族や社会が求める規範を取り込むことによって、その時代における理想像を具現化する設計だから。
- 3 高度成長期の経済政策が住宅規格を一律に定め、家族像にかかわらず画一的な間取りを策定し、多様性を排除する政策的意図を反映させたから。
- 4 住民の個別の要望をきめ細かく反映する柔軟性が、戦後の日本住宅公団による団地開発のような制度手続きで法令化されて義務付けられていたから。
- 5 現実の家の設計は、建築費用の削減を最優先し、団地開発に見られる資材効率やコスト面での合理性のみを考慮しており、家族の理想像や生活様式を反映しないから。
- 6 伝統的な和風の意匠を保持し、襖や障子で区切る家長的空間設計に象徴されるように、理想像を変化させず保守的スタイルを維持する設計が主流だから。

問六

「住宅が意識を規定する」に用いられている表現技法として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

26

- 1 象徴表現
- 2 無生物主語構文
- 3 直喩法
- 4 風刺法
- 5 反復法
- 6 提喩法

問七

「社会における『家族はこうあるべきだ』という規範や圧力を見直す」とはどういうことか、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

27

- 1 住宅設計や間取りを再考する際に、家族や社会が漠然と期待する「こうあるべき」という価値判断を問い直し、住まい方の多様性を検討する視点を提示するということ。
- 2 戦前の家長制を復活させる封建的住まいモデルを推進し、個人の私生活やプライバシー意識を排除する家族共同体への奉仕を義務付けるということ。
- 3 住宅ローン制度の見直しを含め、高度経済成長期の住宅公団政策を踏まえつつ、金融政策を中心に家族観と住宅市場を再編成すべきだということ。
- 4 防災基準や耐震設計の強化により、大震災や大火の教訓を踏まえて住宅構造を社会的規範化し、家族の安全保障を高めるべきだということ。
- 5 建築素材の環境負荷評価を通じ、近年の省エネ法や環境規制を背景に、家族観よりも都市居住の持続可能性とエコ意識を重視すべきだということ。
- 6 住宅展示場の見学方法を改善し、画一的なnLDK型モデルハウスや広告によって家族像を押し付ける慣習を廃止すべきだと論じているということ。

問八

「二者択一的な住まいのあり方<sup>キ</sup>を問い直してみる必要がある」といえる理由として、最も適切と思われるものを次の中から一つ選べ。

28

- 1 都心居住か郊外居住かの二択を、公共交通網の整備状況や生活利便性を考慮して慎重に検討することにより、通勤時間を短縮できる可能性があるから。
- 2 持ち家か賃貸かの二択に限ること、空き家問題や一人暮らしの高齢者の増加といったミスマッチの解消を後回しにしながら住宅市場の価格競争が保たれるから。
- 3 木造か鉄筋コンクリートかの二択で設計規格を限定すれば構造体の耐震性能向上に集中できるが、共同生活の多様性を広げる機会を減らすことになるから。
- 4 戸建てか集合住宅かの二択で土地利用を効率化すれば、都市化と地価高騰の状況の中でも最大限の住宅供給面積を確保できる見込みがあるから。
- 5 家族同居か単身居住かの二択では、住宅困窮者と一人暮らしが不安な高齢者の増加といったミスマッチを解消できないので、新たな共同生活形態を検討すべきだから。
- 6 国の住宅政策支援と地方自治体の福祉支援のどちらを利用するか二択で、社会保障や空き家対策を明確化し、制度運用を簡素化できるから。

問九

「家族が共に生活するのに適していても、『他人』が一緒に暮らすためには不便なものがほとんどなのです」とはどのようなことを言っているか、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

29

- 1 シェアハウジングは若年層向けに経済性や効率性を前提に設計された共同生活スタイルであるため、高齢者や母子世帯では実用性に乏しいということ。
- 2 戦前の家長制を踏襲した大広間構造が、襖や障子の仕切りの存在と奉公人同居を前提に、他者同士の共同生活にも普遍的に適応する設計になっていたということ。
- 3 都市型高層住宅や団地の一室を他人同士で共有しても、初期費用や生活支援コストが高く、共同生活の成員個人の経済効率に見合わないということ。
- 4 日本家屋の襖や障子による空間分割は、同一家族内であれば柔軟に機能するが、背景や生活習慣が異なる他者同士ではプライバシーが確保しづらいということ。
- 5 モデルハウスの間取りが展示会向けに過剰装飾されており、広告用設定や簡易的生活のシミュレーションに偏りがちなため、実際の共同生活には不適切であるということ。
- 6 日本の住宅展示場が典型的なLDK家族モデルのみを想定しており、営業利益を優先し、他人間での経済性や効率性を考慮していないということ。

問十

「『自分には無理だ』『現実的ではない』『落ち着かないのでは』といった否定的な感想」を抱く大学生はどのような人柄だと考えられるか、本文の内容をふまえ、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

30

- 1 若年期の自由気ままな一人暮らし経験やプライバシー意識に基づき、共同生活より個室空間の快適さや間取りの自由を重視する個人主義的な人物。
- 2 環境負荷や家賃コストを気にするあまり、シェアハウジングの心理的利点や非貨幣的支援の利点を軽視し、人との協力関係を重視せず個別最適性のみを追求するような人物。
- 3 戦前の家長制的価値観や家制度を堅持し、ジェンダー規範に基づく家族構成以外の共同生活を倫理的に否定する保守的イデオロギーを信奉するような人物。
- 4 シェアハウジングの非貨幣的支援ネットワークやホームシェアの相互ケアモデルに詳しく、新たな共同生活形態のメリットを冷静に比較評価するような情報通的性格をもつ人物。
- 5 典型的なnLDK設計と妻の個室欠如を好み、住まいをライフスタイル表現とせず、既成の家事分担を前提とした住まい方にこだわる保守的消費者タイプの人物。
- 6 シェアハウジングの社会的なメリットを認識しつつも、自分の慣れ親しんだプライバシーの感覚を変えたくないため、新しい居住スタイルの欠点をあげつらうような人物。

問十一

「個人と個人が相互にケアする関係に多様な選択肢を与えることが重要だ」の「多様な選択肢」の具体例として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

31

- 1 国家資格保持者だけで運営する高齢者向けグループホームで、医療支援と施設管理を理由に非親族入居者同士の接触を禁止する仕組み。
- 2 大都市近郊の戸建てに複数世帯が集まって住む「多世帯同居住宅」を、行政が空き家対策を名目に義務的に割り当て共同負担を義務付ける方式。
- 3 若者が自発的に選んだシェアハウスで、家事や見守りを有償労働として委託契約し、賃料上乘せの商業スペースで運営されている営利モデル。
- 4 家具家電完備の「母子世帯向けシェアハウス」でシングルマザーが共同生活を送り、家事や育児の相互支援を通じて非貨幣的ケアを行う形態。
- 5 学生が無償で高齢者宅に居住し、週十時間の見守り奉仕を提供しながら、アルバイト時間を確保して収入を増やすこともできるホームシェアモデル。
- 6 リゾート型グループホームと契約し、体験ツアー形式の観光プログラムとして短期間だけ共同生活を体験する企画運営モデル。

問十二 本文全体の論旨の説明として適当なものを、次の中から二つ選べ。

ること)

32

32

の欄に、二か所マークす

1 日本の住宅は、農村では三世代同居が常態化し、家長的な大家族制を背景に、襖や障子で区切られた空間の中で私生活やプライバシー意識が未発達だった歴史を経て、戦後の団地の2DKやnLDK型設計で時代の家族規範を反映してきたが、今や従来の家族像にとられず個人と個人が柔軟につながる仕組みが必要だと論じている。

2 近代住宅の普及に伴い「プライバシー保護」と個室重視が唯一の価値基準とされているので、襖や障子で仕切られた伝統的家制度下の私生活観を否定し、共同生活は例外的な住まい方に限定すべきだと論じている。

3 戦後の住宅公団(現・都市再生機構)が開発した2DK型団地は住宅不足を緩和した一方で、団塊世代の画一的な生活パターンを固定化し、個人の多様な住まい方を阻害したため、今後はすべての住戸を再分譲市場に委ねる自由選択主義政策を推進すべきだと論じている。

4 上野千鶴子の指摘を引用することによって、妻であり母である女性に個室を割り当てず家事責任を担わせるnLDK型住宅設計が、性別役割規範を空間配置に内包する構造的な問題であることを分析した上で、今後の住まいのあり方は家族の構成員のプライバシーを尊重する方向で発展していくと予想している。

5 既存の住まい方は、空き家問題が深刻化する中、住居困窮の根本的解決を求める高齢者やひとり親世帯が求める非貨幣的支援ネットワークを排除し、シェアハウジングやホームシェアの発展を阻むため、経済効率重視で固定化し多様性が損なわれていると主張している。

6 2020年国勢調査で単独世帯が38.1%を占めるといふ現状や、「二者択一的な住まい方」を問い直す必要性を示し、空き家や住居困窮、生活に不安を抱える独居高齢者の増加といった社会課題を是正するためにはシェアハウジングやホームシェアなど多様な共同生活形態による非貨幣的ケアネットワークの構築が重要であると述べている。

次の〔三〕の問題はクリエイティブイノベーション学科(文系学力重視型)を受験する者、またはクリエイティブイノベーション学科(文系学力重視型)と映像学科を併願する者のみ解答すること。

〔三〕 次の文章は『宇津保物語』の一節である。大将藤原仲忠ただの母方はたの一族には代々琴の名器と秘曲が伝えられている。大将はこれらを継承すべく別邸に楼を築き、まだ幼い娘のいぬ宮をそこに隔離して母の尚侍なしのかみ（尚侍のおとど）とともに秘曲を伝授する。これを読んで、後の間に答えよ。

かくて、多くも弾き習ひたまひぬべけれど、ことさらに、ただ日に二つ三つを教へたてまつりたまひつつ過ぐしたまふ。庭の山、前栽せんざい、いと面白くなりゆく。

いぬ宮、南の山の方を見出いだしたまひて、独り言に、〔注1〕「宮もろともにえ見せたてまつらぬよ」とのたまふを、大将聞きたまひて、いとあはれと思おほして、「今この琴きんいとよく習はせたまひてむ時、渡りたまひて、Xとぞのたまひし」とのたまへば、恥づかしくてもものたまはず。夕暮れ、昼間などに、尚侍も大将もうち休みたまひて聞きたまへば、琴を習ひたまへる、いとになく、いささか誤り違たがへたる所もなく弾きたまへり。二ところながら、いとかなしくゆゆしく覺いえたまふ。〔注3〕

いかなる時にかあらむ、尚侍のおとどに、「下仕へをも召し、〔注2〕ちやを呼ばばや」と聞こえたまへば、召したり。去年こぞよりは殊に参らず。されど、うつくしがりたてまつりて、なほ参り馴ならはしたりければ、あはれと思し、参らせてしなりけり。琴弾き居たまへる御ほどの、またかかるを、大将、あはれに見聞こえたまふ。〔注4〕侍従来て、「御琴はY」と申したまへば、「弾ひきつべし。宮などのやうに、傍かたはらに置きて、常に今は弾ひきてむ」など語らひたまふなり。夜いたう更けたる月夜の、遥はるかに澄みたるに、二ところ弾き合はせたまひて、いぬ宮に同じ手を弾かせたてまつりたまふ。ただ同じ調べを弾かせたてまつらせたまふ。ただ同じことなるを、うれしう、大将覺えたまふ。

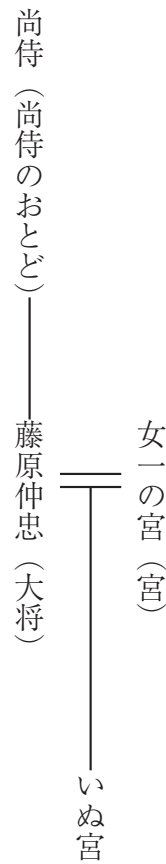
〔『宇津保物語』〕

〔注1〕 宮 —— いぬ宮の母である女一の宮。いぬ宮が秘曲の習得のため楼に籠もってからはいぬ宮と会っていない。

〔注2〕 ちや —— いぬ宮の乳母。

(注3) 去年よりは殊に参らず —— 「いぬ宮は去年から乳を特に召し上がらない」の意。  
 (注4) 侍従 —— 作品中では「侍従の乳母」とも呼ばれる登場人物で、「ちや」とは別人。いぬ宮には五人の乳母がいる。侍従は乳母という位置づけではあるが、実質的にはいぬ宮の母である女一の宮付きの女房である。

【人物関係図】



問一 傍線部 a～e の助動詞のうち、完了の意味で用いられているものを次の中から一つ選べ。 33

- 1 a
- 2 b
- 3 c
- 4 d
- 5 e

問二 「え見せたてまつらぬよ」<sup>ア</sup>、「うつくしがりたてまつりて」<sup>ウ</sup>の主語の組み合わせとして、最も適当と思われるものを

次の中から一つ選べ。 34

- 1 ア||宮                      ウ||ちや
- 2 ア||宮                      ウ||大将
- 3 ア||大将                      ウ||いぬ宮
- 4 ア||いぬ宮                      ウ||ちや
- 5 ア||いぬ宮                      ウ||いぬ宮

問三

35

「いとかなしくゆゆしく覚えたまふ」の語句の意味の説明として、最も適切と思われるものを次の中から一つ選べ。

- 1 いぬ宮がとても痛ましく、そのうえ彼女の琴の才能がおそれ多いことであると思ひ申し上げる
- 2 いぬ宮がたいそういとおしく、一方そのあまりの演奏の才能は不吉なほどだとも思われなさる
- 3 いぬ宮の琴の演奏の才能は全く見事であり、同時に伝承者の定めが気の毒であるとも思われる
- 4 いぬ宮が非常にかわいらしく、しかもその琴の演奏の才能は素晴らしいことだとも感じられる
- 5 いぬ宮の琴の演奏の才能はじつに貴いことであり、かつまた立派なことであるとお思ひになる

問四

「なほ参り馴らはしたりければ」<sup>エ</sup>の説明として、最も適切と思われるものを次の中から一つ選べ。

36

- 1 いぬ宮は乳母になつていて、今でも乳を飲みたそうにしていたということ。
- 2 乳母はいぬ宮と親しくしていて、今も乳を与えたそうにしていたということ。
- 3 大将は今も乳母がいぬ宮の所へ来て親しくすることを許していたということ。
- 4 乳母は今でもやはりいぬ宮のもとにやって来て慣れ親しんでいたということ。
- 5 いぬ宮は今も従来と同様に乳母の所を訪れて仲よく親しんでいたということ。

問五

空欄

X

・

Y

に補うものとして最も適当と思われるものを次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

X

37

1 もろともに会ひ申したまはむ

2 もろともに訪れたまはむ

3 もろともに御覽ぜむ

4 もろともに弾きはべらむ

5 もろともに承り申さむ

Y

38

1 弾かれたまふるべきや

2 弾かせたまへりべしやは

3 弾かれたまへるべきやは

4 弾かせたまへるべしや

5 弾かせたまふるべしや

問六

本文の内容についての説明として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

39

- 1 大将と尚侍は一度に多くの秘曲を伝授できるのだが、いぬ宮は日に二、三曲しか修得できないので、伝授の完了までには時間がかかり、その間に庭の前栽は見事に色づいてきた。
- 2 母の女一の宮に会えず寂しがっているいぬ宮の<sup>つふや</sup>眩きを聞き、秘曲の伝授が済んだら自ら母宮を連れてくると大将が伝えると、独り言を聞かれたと知ったいぬ宮は恥ずかしがった。
- 3 いぬ宮はまだ幼いにもかかわらず琴の秘曲をほとんど間違えずに弾いていくので、その継承者としてのあまりの資質の高さに下仕えたちは恐れいり、大将と尚侍は感動した。
- 4 侍従が訪れていぬ宮に琴の演奏の修練について尋ねると、いぬ宮はもはや琴の名手である母宮に匹敵するほど上達したので、いつでも母宮と合奏ができるよと誇らしげに語った。
- 5 いぬ宮は琴の演奏についての抜群の資質を備えているが、まだ乳母を恋しがるほど幼い頃から秘曲の継承者として修練を積み重ねばならず、そのことを大将はかわいそうに思った。

〔一〕

| 問  | 一  | 二  | 三  |    |    |    |    | 四 | 五 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|
|    |    |    | イ  | エ  | オ  | カ  | ケ  |   |   |
| 番号 | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8 | 9 |
| 解答 | 4  | 2  | 5  | 3  | 2  | 1  | 4  | 6 | 4 |
| 問  | 六  | 七  | 八  | 九  | 十  | 十一 | 十二 |   |   |
| 番号 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |   |   |
| 解答 | 5  | 6  | 3  | 1  | 4  | 5  | 2  | 3 |   |

〔二〕

| 問  | 一  | 二  |    |    |    |    | 三  | 四  | 五  |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    | イ  | ウ  | エ  | ク  | ケ  |    |    |    |
| 番号 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 解答 | 5  | 2  | 1  | 3  | 4  | 5  | 6  | 3  | 2  |
| 問  | 六  | 七  | 八  | 九  | 十  | 十一 | 十二 |    |    |
| 番号 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 |    |    |
| 解答 | 2  | 1  | 5  | 4  | 6  | 4  | 1  | 6  |    |

〔三〕

| 問  | 一  | 二  | 三  | 四  | 五  |    | 六  |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    |    |    |    | X  | Y  |    |
| 番号 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 |
| 解答 | 3  | 4  | 2  | 4  | 3  | 4  | 5  |